

基礎工事 ①



根切り工事

地盤調査を行い、地盤に問題がなければ「根切り（ねぎり）工事」を行います。根切り工事とは、地面を掘る作業のことで、建物を建設する際に基礎コンクリートを打てる状態にするために欠かすことができない土木工事です。

転圧

根切り工事が済んだら、機械で地面を転圧していきます。基礎が沈まないように地面の締め固めを行います。

防湿シート

次に、**防湿シート**を敷きます。防湿シートは、地面から上がる湿気を防ぐためのものなので、何層にも重ね、めくれないように丁寧に施工していきます。



捨てコンクリートの打設

次に、捨てコンクリートの打設を行います。いわゆる「ステコン」は、建物の床になるものではなく、建物を建てるための基準線を出したり、地面をならすことで足場を作りやすくしたり、職人さんの作業をしやすくするのが目的です。



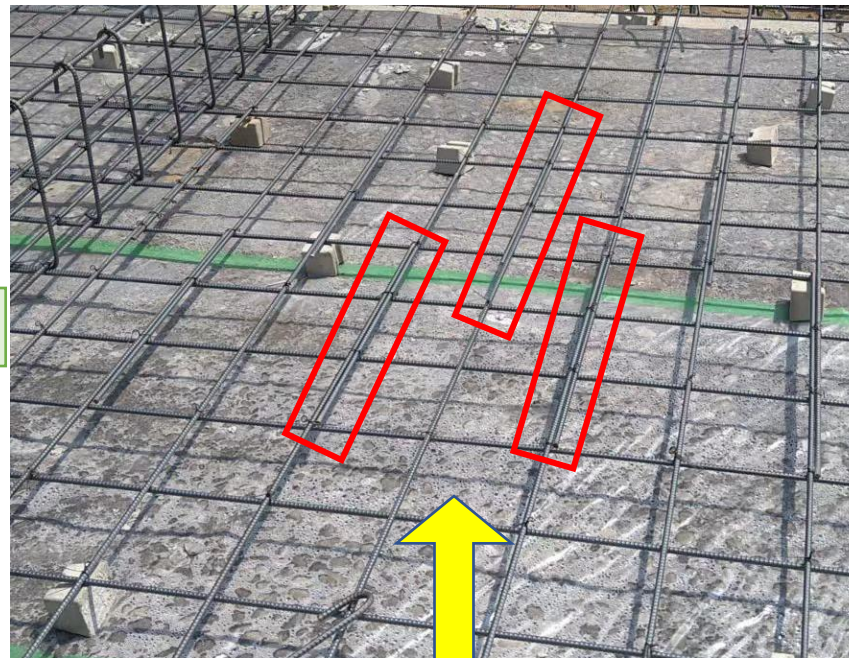
基礎配筋

ステコンがすんだらいよいよ配筋工事です。配筋は、基礎となる底盤を先に行い、その後、立ち上がり部分を行います。鉄筋と鉄筋を結束線で結んで固定していきます。



スペーサーの役割

コンクリートを打設する際、鉄筋が動かないように所定の位置へ固定させるとともに、必要な厚みを確保するために用います。



鉄筋の重ね接手

鉄筋の重ね接手の長さは、コンクリートの強度や鉄筋の強度、径数によって決められています。また、継ぎ手が複数個所に及ぶ場合は、接手部分にかかる力を分散させるため、各継ぎ手の位置が同じ個所にならないように一定の距離をずらす必要があります。

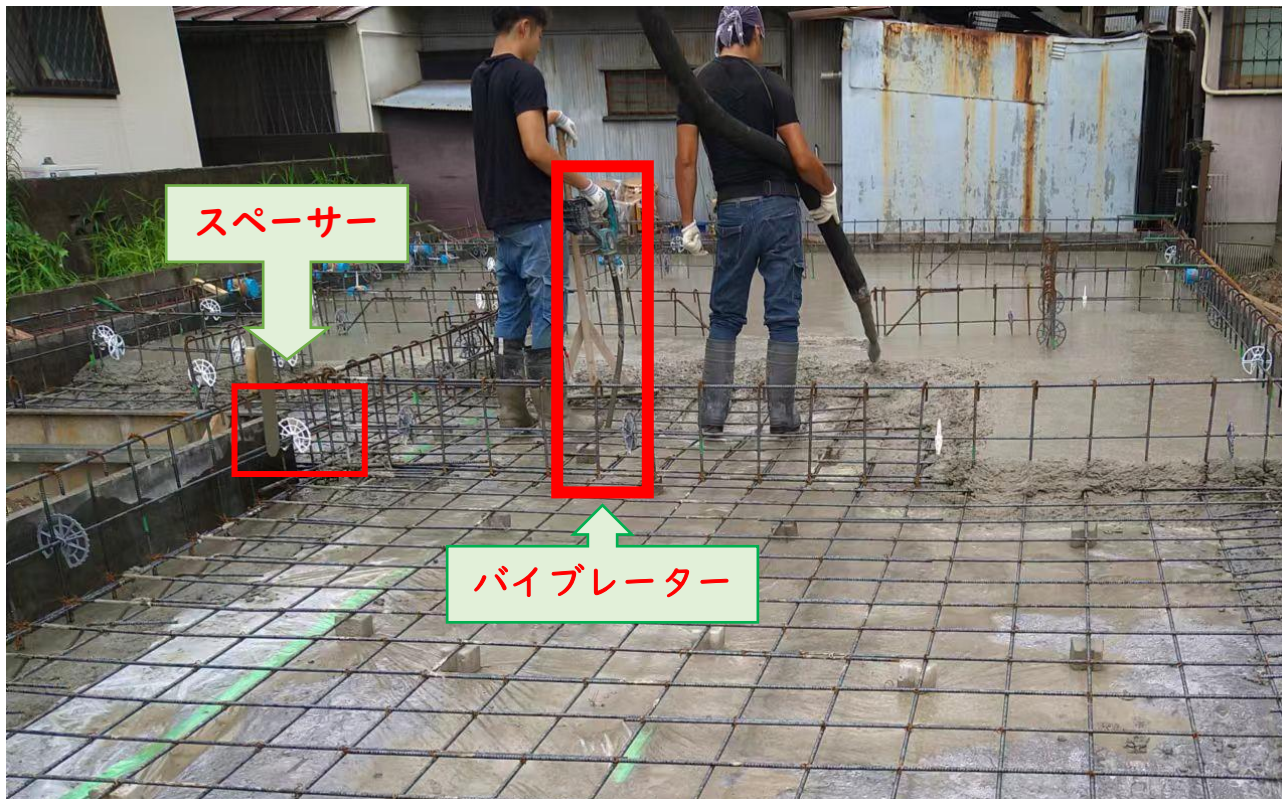


ベースコンクリート打設

右の作業員が黒いホースからコンクリートを流し込み、左の作業員が「バイブレーター」でコンクリートの泡を抜いています。

その後、数日間乾燥のために養生します。

※写真の丸いプラスチックの輪っかもまた「スペーサー」です。こちらは側面の被り圧を確保するために設置します。



バイブレーターの役割

コンクリート打設の際に、バイブレーターで適度の振動を与えることにより、内部の気泡を除去しコンクリートの密度を高め、骨材が均等に分布した強度の高いコンクリート製品が得られます。



型枠施工



ベースコンクリートが十分に固まったら、基礎のモルタルを流し込むための型枠を設置していきます。

基礎の完成



モルタルを流し込み、乾いたら型枠を外します。
基礎の完成です。